

アシシロハゼ (ハゼ科)

学名 : *Acanthogobius lactipes*

別名 : ゴロ, トラゴロ, ゴマハゼ, ハゼ

大きさ : 全長 10 cm

特徴 : 体色は淡褐色で、尾びれ基底付近の斑紋は尾びれ先端に向かって2方向に分かれる。成熟魚は腹びれが暗色になる。同属のマハゼ (*A. flavimanus*) とよく似るが、尾びれ基底付近の模様(マハゼは斑状)や、頭部の大きさ(マハゼの方が大きい)、鱗が粗いこと(マハゼは細かい)などで識別可能。さらに幼成魚では体側に10~12個の白色横帯があることも識別点。

産卵期は初夏から夏で、石や貝殻などの下面に産卵する。卵の大きさは長径約 2.5 mm, 短径約 0.5 mm と細長く、オスがこれを守る。1年で約 5 cm に成長し、成熟、産卵する。

国内での分布 : 北海道から九州までの日本各地の汽水域

県内での分布 : 霞ヶ浦水系, 涸沼, 利根川水系や那珂川水系, 久慈川水系など

県内での生態 : 霞ヶ浦・北浦では湖岸付近から沖合まで広く分布している。両湖における仔魚の出現は6~10月にかけてで、ピークは7~8月上旬。仔魚はワムシや小型動物プランクトンを、稚魚以降はイサザアミやユスリカ幼虫, 動物プランクトンを食べる。

備考 : 霞ヶ浦や北浦では、ハゼ類を一括してゴロと呼んで佃煮に加工するが、本種の占める割合は少ない。

主な文献 :

小沼洋司 (1983) 霞ヶ浦北浦における湖岸帯の魚類相とハゼ類の分布・漁獲量. 茨城内水試調査研究報告, 20: 15-23.

小沼洋司 (1985) 霞ヶ浦・北浦の湖沖帯に現われる稚仔とその摂餌について. 茨城内水試調査研究報告, 22: 1-30.

鈴木健二 (1980) 霞ヶ浦における漁業資源の生産構造に関する研究-II ハゼ類の食性について. 茨城内水試調査研究報告, 17: 27-32.